

群 教 セ	F09 - 01
	平18.237集

# キャリア教育から学ぶ

## 職業理解と自己理解

### — クラスでのインターンシップ指導を通して —

特別研修員 贅田 秀樹 (県立藤岡工業高等学校)

#### 《研究の概要》

本研究は、職業や仕事について具体的・現実的に理解させることと自己の可能性や適性を理解させることで、社会の中で自立するための人間形成を目指させるものである。エゴグラムなどの各検査結果をもとに、生徒一人一人の実態を的確に把握し「働くこと」への興味・関心を促進させた。また、インターンシップを通して年齢や価値観の異なる「多様で幅広い他者」と人間関係を築くことの難しさと大切さを理解させ、将来を考えさせた。

## I 将来の「生き方」を考えるために何をすべきか

### 1 生徒の実態

昨年度進路指導を行った際、職業理解や自己理解が深まっている生徒は決して多くなかった。進路選択直前になり、あわてて職業理解・自己理解に努める生徒もいた。彼らの中には、「とりあえず、就職さえできればよい」といった安易な考えがあり、「働くこと」への意識の低さを感じた。生徒の現状を見ると、辛いことや難しいことから目を背け、楽な道に進もうとする傾向が多くなってきたように感じる。

また、社会状況も大きく変化し、終身雇用制度が崩れて能力主義に移行してきている。このような高卒就職者の状況を踏まえ、本校では今年度から、職業理解と自己理解を深めさせ、3年次の進路選択に役立たせるために、1、2年生全員を対象にインターンシップを実施した。

本クラス1年生は男子ばかりで、約半数の生徒が卒業後に就職を希望している。しかし、具体的な企業や職種を考えている生徒は、まだまだ少ない。3年間という限られた時間の中で、彼らによりよい進路選択をさせるためには、1年次から生徒一人一人の職業観を養い、コミュニケーション能力やマナーの向上を図っていく必要がある。

### 2 インターンシップを通して職業観を養う

2日間という短期間ではあるが、インターンシップを実施し、職場の厳しさやあいさつ・言葉遣

いの大切さなど、社会人としてのマナーを体感し、進路選択に向けての充実した学校生活を送れるように意識を喚起する。さらに、キャリア教育の体験によって、正しい職業観を身に付け、将来の進路を考えるよき機会とする。

### 3 生き方や自己実現の在り方を考えさせるには？

#### (1) 職業理解を深めるにはどうしたらよいか？

インターンシップ及びインターンシップ事前指導から自己の果たすべき役割や適性などを理解させる。また、将来設計を踏まえて比較検討し、様々な職業の中から、自分に適したものを選択する力を身に付けさせる。

#### (2) 自己理解を深めるにはどうしたらよいか？

進路適性検査の結果を参考にしながら、自分の個性や可能性を発見させる。また、エゴグラムの結果から、自分自身の行動パターンの傾向性、心のエネルギーがどのように出ているか知り、人と交流するとき自分の行動が相手にどんな影響を与えるか、あるいは、人からどのような影響を受けているのかを認識させる。

#### (3) 将来の自分の「生き方」を考えさせるには？

生徒指導（あいさつや言葉遣いなど社会人として自立していくために必要な力を育てる）と進路指導（自分の将来像を見据えた上で、身に付けなければならない技術や知識を学ぶ力を育てる）を行うことによって、自分自身の将来の「生き方」（何のために学び、何のために働くのか）を考えさせる。

## II 「生き方」を考えさせる方法

### 1 「生き方」の指導計画

月	生き方指導計画
5	・進路適性調査 自己理解
6	・インターンシップ事前指導 I 生き方指導 (勉強の必要性和働く意義)
7	・インターンシップ事前指導 II 生き方指導 (フリーターについて) ・心理検査エゴグラム 自己理解
9	・インターンシップ事前指導 III 職業理解・自己理解 (職業・仕事調べ)
10	・インターンシップ事前指導 IV 生き方指導 (転職について考える)
11	・インターンシップ事前指導 V 生き方指導 (あいさつの大切さ) ・インターンシップ実施 ・インターンシップ事後指導 職業理解・自己理解 (インターンシップ実施ノート作成)
12	・まとめ

### 2 「生き方」指導の結果と考察

#### (1) インターンシップ事前指導

##### ア インターンシップ事前指導 I

<p>&lt; 題材 &gt; 勉強の必要性和働く意義について</p> <p>&lt; ねらい &gt; 「何のために学び、何のために働くのか」を考えさせ、自分自身を見つめ直させる。</p> <p>&lt; 活動内容 &gt;</p> <p>① 「何のために学び、何のために働くのか」というアンケートをクラスで実施する。</p> <p>② グループにわかれて意見交換し、グループごとに発表する。</p> <p>③ 集計結果を提示し、クラス全体で話し合い、理解を深める。</p>
--

##### 【アンケート結果】

- ・「勉強は得意ですか」(図1)の質問に対して85%が不得意であると答えた。反対に得意だと

答えた生徒は、わずか5%であった。

- ・「何のために勉強しますか」(図2)の質問に対して半数以上が分からないと答え、将来のためと答えたのはわずか7.5%であった。
- ・「何のために働きますか」(図3)の質問に対して約80%の生徒が「お金のため」と答えた。

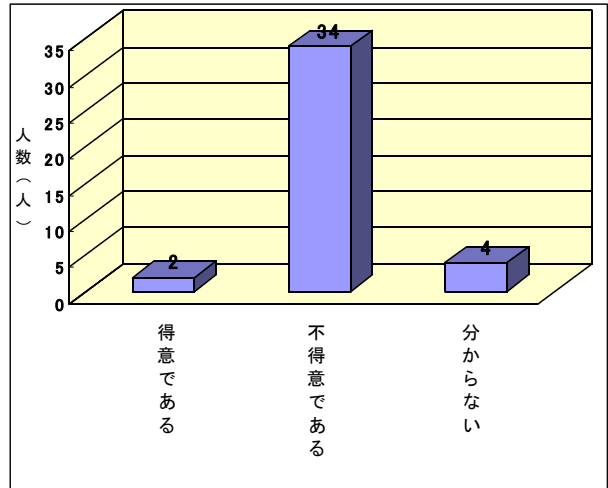


図1. 勉強は得意ですか？

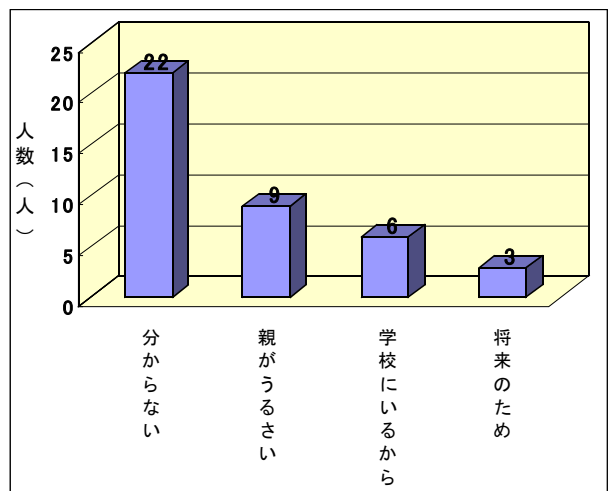


図2. 何のために勉強しますか？

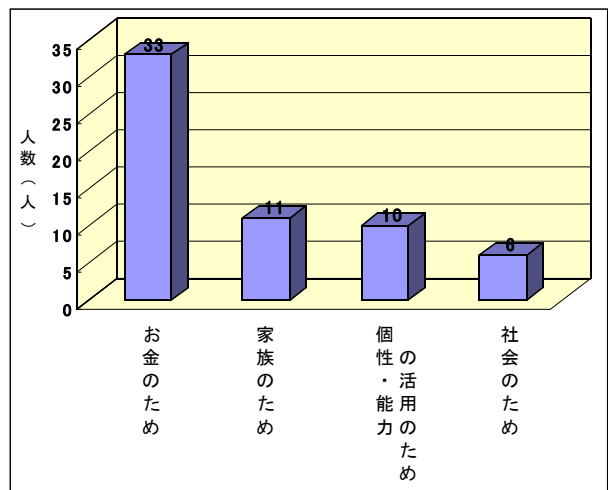


図3. 何のために働きますか？

【教員の支援】

グループで話し合い、各自の感想からどのような気づきがあったかを考えさせた。

【生徒の感想】

- ・何のために勉強をするかなど考えたこともなかったが、友人が「自分の将来のため」と言ったので始めは驚いたが、よく考えたらそのとおりでと思った。自分の将来をしっかりと考えたい。

【考察】

勉強の必要性を考えたことがないと答えた生徒が多数いたが、本指導を通して考えるようになった。今後、学習指導をする上で、勉強することで何が身に付き、何が得られるのかを具体的に指導する必要があると感じた。

お金のためだけに仕事をすると答えた生徒に、『仕事に対して夢や希望を持ってほしい』という私自身の考えを強く伝えてしまい、お金のためだけに働くことを否定的にとらえさせてしまった。『仕事＝お金』だけではないが、生徒自身に将来の生き方を考えさせることが大切だと感じた。

イ インターンシップ事前指導Ⅱ

＜ 題材 ＞ フリーターについて  
 ＜ねらい＞ フリーターと正社員の違いを認識させ、自分の将来を考えさせる。  
 ＜ 活動内容 ＞  
 ① 「フリーターについて考えよう」というアンケートをクラスで実施する。  
 ② グループにわかれて意見交換し、グループごとに発表する。  
 ③ 求人票の一例を配布し、その見方について説明する。  
 ④ 集計結果を提示し、クラス全体で話し合い、理解を深める。

【アンケート結果】

結果は表1のとおりである。

表1. 将来フリーターになりたいですか？

回 答	人 数	理 由
なりたい	5名	・責任がなく楽そう
なりたくない	35名	・将来が不安 ・収入が安定しない ・人に言えない

【教員の支援】

お金のために働きたいという意見が多かったため、求人票から年収を計算させ、フリーターと正

社員の待遇の差を認識させることで、職業理解を深めさせた。

【生徒の感想】

- ・フリーターでよいならば、高校で勉強する必要がないと思う。
- ・夢をかなえるためならフリーターでもいい。

【考察】

フリーターと正社員を比較するとき、生徒にとって分かりやすいもので、必要性の高いものは何かと考え、求人票を用意した。

今後は正社員とフリーターの格差をよりの確に紹介しながら授業を展開したい。身近でしかも具体的な数字を示すことで、生徒の関心は高まると思われ、18歳までに何をどこまで身に付けておく必要があるか、ということを考えさせたい。

ウ インターンシップ事前指導Ⅲ

＜ 題材 ＞ 職業・仕事調べ  
 ＜ねらい＞ 自分が興味のある職業や憧れの仕事について別の角度からとらえ、様々な仕事があることを理解する。  
 ＜ 活動内容 ＞  
 ① 80の職業から、自分がやってみたい仕事、興味のある仕事をワークシートに記入する。  
 ② 次に隣の友人に合うと思える仕事を考え、ワークシートに記入する。  
 ③ 隣の友人とワークシートを交換し、仕事を選んだ理由をお互いに伝える。

【教員の支援】

自分自身としっかり向き合い、10年後の自分を想像して仕事を選択させた。自分を知ることの大切さを考えさせた。

【生徒の感想】

- ・自分が嫌だと思える仕事を友人に勧められて困ったが、理由を聞いたなら納得した。自分のことをよく分かってくれていることがうれしかった。
- ・やりたい仕事はあるが、それになるためにはどうしたらいいか分からないから教えてほしい。

【考察】

自分がやってみたいと感じた仕事と友人から見た自分に合っている仕事の相違に一喜一憂していたが、自己を見つめ直し、他者を理解するよい時間となったようである。このワークでさらに仕事についての興味・関心が芽生え、希望する仕事に就くためにはどんな勉強が必要で、どんな資格が必要か尋ねてくる生徒がいた。将来、自分は「何で食べていくか」という意識を持ち始めた。

#### エ インターンシップ事前指導Ⅳ

- ＜ 題材 ＞ 転職について考える  
＜ねらい＞ 新卒者と中途採用者についての違いを認識させ、転職について考える。
- ＜ 活動内容 ＞
- ① 退職を考えた高卒就職者のエピソードを生徒に紹介する。
  - ② エピソードから再就職が困難な理由を考えて、ワークシートに記入する。
  - ③ グループにわかれて意見交換し、グループごとに発表する。
  - ④ 新卒者と中途採用者の違いを認識させる。
  - ⑤ 集計結果を提示し、クラス全体で話し合い、理解を深める。

#### ＜エピソード＞

高校卒業後に就職した本校卒業生の話である。毎日同じ業務内容に嫌気がさして7月に退職を考えたが、前月にすでに退職した友人が再就職できない現状を知り、退職の考えを捨てた。現在では少しずつだが仕事を覚えたので信頼されてきた。

#### 【生徒の感想】

- ・嫌な仕事だったらすぐに辞めてしまえばよいと思っていたが、次の仕事を探すのが難しいことを知ったので考えを変えたい。
- ・資格を取る必要性を強く感じた。
- ・仕事を安易に辞めることは大変なことであると知ったので、自分自身としっかり向き合って進路選択したいと思う。

#### 【考察】

辛ければ、つまらなければ辞めて、次の仕事を探せばよい、フリーターになればいい、などという安易な考えは社会では通用しないことを、自分たちと年齢の近い卒業生の体験談から理解したようである。特に新卒者と中途採用者の採用時における面接内容には大きな違いがあることを知り、仕事に対する自分の甘さを考えさせられたようである。

新卒者の面接は志望動機や高校時代の思い出などを質問されるが、中途採用者に対しては「入社後、あなたは何かできますか」という質問一つに絞られる。高卒就職者が安易に離職した場合、再就職する際には資格や技術など「これだけは人には負けない」というものを持つことが重要だと考えられる。

また、仕事を続ける上で必要な要素の一つに「やる気」があるが、生徒たちの「やる気」が、今のところ現実を直視していない空想のようなものだという現状もあるので、夢を壊すことなく、「やる気」を現実に向けていく必要があると感じた。

#### オ インターンシップ事前指導Ⅴ

- ＜ 題材 ＞ あいさつの大切さ  
＜ねらい＞ あいさつをすることの大切さと、あいさつをされる喜びを感じさせる。

#### ＜ 活動内容 ＞

##### 【ワーク 1】

- ① 2人1組になり、あいさつする人とそれを受ける人に分かれる。
- ② 椅子を隣同士にさせ、場面設定をする。始めるときは以下の③・④を両者に説明し、「はい、スタート」といったら、始める。
- ③ 話し手は聞き手に「こんにちは」とあいさつをする。返事が返って来なくても、ちょっと間をおいて、もう1度、あいさつする。
- ④ 聞き手は2度ともそっぽを向いて返事はしない。ここでは役割を演じているので返事がしたくなくても返事はしない。30秒経ったら「終わりです」と声をかける。
- ⑤ 次に話し手が「こんにちは」と聞き手に声をかけたら、聞き手は話し手を見ながら「こんにちは」とあいさつを返す。
- ⑥ 役割を交代して③～⑤を行う。

##### 【ワーク 2】

- ① 最初の話し手、聞き手に戻る。2回目はあいさつに言葉を少し加える。たとえば、「こんにちは、自分の名前は〇〇です。好きな食べ物は〇〇で、嫌いな食べ物は〇〇です。好きな動物は〇〇です。」と、相手に話しかける。話す時間は1人2分と決める。最初、聞き手がそっぽを向いているのは2回目と同じである。
- ② 次に話し手は先ほどと同じ話をする。今度は聞き手は話し手が言ったことを気持ちも考えながら繰り返す。例えば、「名前は〇〇くんですね。食べ物は〇〇が好きで、動物は〇〇が好きなんですね。」と伝え返す。
- ③ ワーク終了後、最初にロールプレイした2人で振り返りの話をする。その後、グループで振り返る。相手から返事があったときや繰り返し言ってもらえたときの自分の気持ちはどうであったか尋ねる。

## 【生徒の感想】

あいさつワークの感想は表2のとおりである。

表2. あいさつワークの感想

【ワーク1】の感想
あいさつを無視された時の気持ち ・目すら見てくれないので、いやな気持ちになった。ショックだった。 ・最悪だと感じ、悲しかった。
あいさつを返された時の気持ち ・やっぱり目を見てあいさつするのはいいと思った。本当にうれしくなった。
【ワーク2】の感想
話しているのに無視された時の気持ち ・独り言を言っているみたいで悲しかった。 ・孤独感を感じた。 ・話をしっかりと聞いてほしかった。
繰り返し言ってもらえたときの気持ち ・聞いてくれているのが分かり、うれしかった。 ・会話をしているような感じで、気持ちがはずんだ。

このような気持ちの変化をインターンシップにどのように生かすか尋ねたところ、クラスで話し合い、以下の2点について実践することを約束した。

- あいさつは自ら率先して行い、あいさつされたら、必ず返す。
- 相手の目を見て話をする。

## 【考察】

「あいさつ」という当たり前のことがきちんとできない生徒もいたため、今回、あいさつワークを取り入れてみた。小、中学生でもできる簡単なワークであったが、高校生ならば役割をきちんと理解させることができると思い、負の体験もさせた。この体験によってあいさつそのものを考えさせることができたようだ。

人間関係を形成する上で、最も大切なものの一つがあいさつであり、礼儀である。インターンシップでは相手の目を見て、自分から積極的にあいさつするというクラス目標を掲げたことから、高校生として「あいさつ」の大切さを実感させることができたと考えられる。勇気を持ってあいさつをするのではなく、ごく自然にあいさつができるように指導していきたい。

## (2) 検査の活用

### ア 進路適性検査の活用

進路適性検査の見方を説明し、自分の向いている職業、向いていない職業を考えさせ、自己理解を深めさせた。

### イ YG性格検査の活用

検査結果を基に二者面談を行い、「人間関係をよくすることへの取組姿勢」や「価値観」についての自己理解を深めさせた。

### ウ エゴグラム

仕上がったグラフを見て、自分の性格傾向をよく把握するよう指導した。また、友人同士または席の近い者同士でグラフを互いに見せあい、感想を話し合うことで、自己理解及び他者理解が深まった。

## 【生徒の感想】

- ・自分の気持ちを客観的に見ることができてよかった。
- ・思ったとおりの結果であったが、気を付けなければいけない点も見つかり、今後直していきたい。また、友人のことを誤解している点もあり、とても参考になった。

## 【考察】

他者と比べることで改めて自分の性格に気付き、改善しようという声が多々あった。グラフを見せ合うことには抵抗があると思っていたが、生徒は他者から見た自分の性格を改めて聞きたい様子であった。数名の生徒はグラフを見せ合うことをためらっていたので、私のグラフと交換し、互いに感想を話し合うことで自己理解が深まったと考えられる。

## (3) インターンシップの実施及び事後指導

### ア インターンシップの実施

平成18年11月7日、8日の2日間、インターンシップに参加した。職種は表3のとおりである。

表3. インターンシップ先職種一覧表

職 種	人 数
製造業	17名
サービス業	9名
建設業	7名
学校・保育園	2名
美容院	1名
農協	1名
配送業	1名

### 【生徒の感想】

- ・仕事の楽しさと辛さを実感できて良かった。
- ・仕事は一人ではできないことを知った。職場の人達との関係が大切だと思った。
- ・父の職場で働いたが、父の大変さが身にしみて分かった。
- ・仕事にやりがいを感じた。
- ・社会人は「時間」をととても大切にしていた。
- ・現場には色々な人がいて、それぞれの人が自分やその家族のために仕事をしていた。社会に出て働くというのはとても責任のあることだと思った。
- ・あいさつをしたら、笑顔であいさつが返ってきた。慣れない環境だったが、あいさつをすることによって緊張がとれた。

### 【企業の声】

- ・工業高校生への見方が大きく変わった。就業時間前に入社し、大きな声であいさつする姿勢は大変素晴らしかった。来年度の求人を積極的に考えたい。
- ・慣れない作業にも熱心に取り組んでいた。
- ・一日中、立ち作業で大変そうであったが、真剣に取り組んでくれた。朝も元気なあいさつで入社し、こちらが見習う点も多々あった。

### 【考察】

クラスの全生徒が、けがなく無事に、インターンシップを終了することができた。欠席はもちろん、遅刻をすることもなく、就業時間前に入社し、きちんとあいさつができた。2日間という短期間ではあったが彼らは多くのことを学んできたようだ。インターンシップ前後では職業観に変化が出始めている。働くことに興味を持ち、高校卒業後の進路について真剣に考えるようになった生徒が多く、インターンシップ先に父や母の職場を選択した生徒は、両親に対して尊敬する気持ちを強く持ったようである。

また、資格取得や生徒会活動に積極的に取り組むようになった。生徒会選挙に立候補した生徒は、全校生徒の前で「今までの消極的だった自分を変えたい。これからは、何でも積極的にやりたい。」と立候補した理由を述べた。インターンシップを通して人間関係づくりの第一歩はあいさつであることを学び、「時間」を守ることの大切さを知った。そして、学生と社会人の違いを身をもって体験したことが大きな収穫であった。

## Ⅲ まとめと今後の課題

### 1 まとめ

#### (1) 職業理解について

インターンシップ前は就きたい職業と勉強の関係性が分からない生徒が多かった。勉強と職業は必ずしも直結するものばかりではないが、就きたい職業にはどんな勉強が必要であるか考えるようになり、資格取得などに積極的になった。

#### (2) 自己理解について

エゴグラムなどの活用で自分自身を見つめるいい機会になったようだ。直接、人を変えるということは難しいが、「自分を知る」ことで、自分を変えることはできる。その結果として、相手を変えることもできるし、自分自身の将来を変えることができることに気付き始めた。

#### (3) 将来の「生き方」について

社会人として当然であるあいさつや時間を守ることなどのマナーの大切さを身をもって体感したことで、自分の将来と真剣に向き合い、今何をすべきかということを考えるようになった。

### 2 今後の課題

キャリア教育を1年生から3年間を見通して計画的に続けることが重要である。それは、「将来を考える」ということだけではなく、刻々と変化していく現代の社会状況に対応する力を身に付けることが必要だからである。2年次でもインターンシップを実施するが、生徒一人一人の職業観をしっかりと育て、進路選択に則した具体的な体験になるよう指導したい。

また、キャリア教育を進めるに当たっては、これまで以上に「現代の社会の中で、どのようにして生きることが大切か」ということを生徒だけでなく私たちがしっかりと把握する必要がある。

(担当指導主事 井上 淑人)

#### Web検索キーワード

【教育相談 インターンシップ キャリア教育  
職業観 自己理解】

#### 〈参考文献〉

- ・明石 要一 著 『キャリア教育がなぜ必要かーフリーター・ニート問題解決への手がかりー』 明治図書出版(2006)
- ・『学校教育相談10月号』(学校で使えるやさしいフォーカシング) ほんの森出版(2006)